２０２３年7月（第８６号）

Design

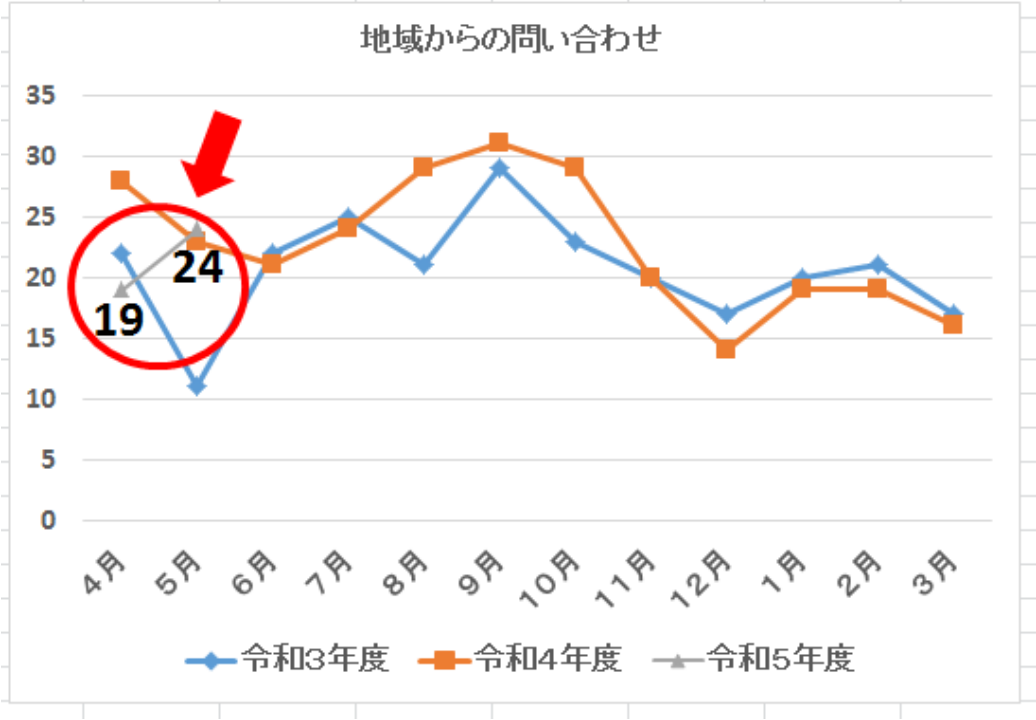
～ 換 気 を 徹 底 し ま し ょ う ～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

令和５年４・５月の問い合わせ状況について

～ いつもありがとうございます ～

平素は地域包括ケア病棟“彩り”に患者様をご紹介頂き、ありがとうございます。引き続き、ご紹介頂いた患者様を受け入れさせて頂きたく思っています。よろしくお願いします。



「山城ケア病棟」と検索ください。

夏期休暇中も受け入れさせて頂きます

～ よろしくお願いします ～

例年のこととなりますが、地域の先生方がお休みとなる期間中、地域包括ケア病棟“彩り”ではご紹介頂いた患者様を受け入れさせて頂いています。お気軽にお問合せ下さい。

＊

０７７４－７３－１８１８（担当：松田・中嶋）

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れした事例の紹介（第５７回）

～ 定期のご利用が、患者さんやご家族の安心感に繋がります ～

７０代の患者さんです。病状の悪化に伴うＡＤＬの低下から、介護サービスの調整が必要となったため、かかりつけ医、担当ケアマネジャーよりご入院の依頼を頂戴しました。入院中には採血、胸部レントゲン、心電図などの検査を実施し、また栄養状態が悪かったことから補液をさせて頂きました。介護サービスの再調整を目的とした入院でしたが、ご家族の介護負担が大きくなることが懸念されたため、改めてご家族に退院先の意向を確認しました。そしてご家族は、改めて自宅への退院を希望されたため、自宅退院に向け、地域の関係機関の皆様とカンファレンスを行いました。入院中、担当ケアマネジャーに、訪問看護、訪問入浴などの介護サービスの調整をお願いし、約１ヶ月後に自宅退院されました。

現在は、大型連休（年末年始、ゴールデンウィーク、お盆期間）に、当院の地域包括ケア病棟“彩り”を定期的に利用頂いています。そして、現在もご自宅生活を継続しておられます。

＊

今回の事例の患者さんの他にも、当院の地域包括ケア病棟“彩り”を定期的に利用頂いている患者さんが増えてきています。定期的にご利用頂くと、病状をより把握しているスタッフがケアをさせて頂くため、患者さん、ご家族の安心感に繋がります。定期的に当院の地域包括ケア病棟“彩り”のご利用希望の患者さんがおられましたらご紹介下さい。（地域医療連携室 主事 松田　辰基）

地域医療連携室より

～ 将来も必要とされるために ～

現在、地域医療連携室には６名のソーシャルワーカー（中嶋ＳＷ・中野ＳＷ・濱松ＳＷ・松田ＳＷ・堀井ＳＷ・辰本ＳＷ）がいます。入院患者さんへの退院・転院支援や外来患者さんの支援の他、患者さんの治療やリハビリテーション、退院支援の進捗状況などに応じて適切な病棟（地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟）への転棟調整や、地域の皆様からのご紹介による地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟での受け入れ調整など、業務は多岐にわたります。

地域の皆さんの支援と同様、ソーシャルワーカーが担当する支援も一筋縄でいかない、いわゆる“困難な事例”も多いのですが、患者さんにとって何が最善かということを念頭に、時には互いの“経験”を皆で共有しながら患者さんの支援をしてくれていて（時には患者さんやご家族、地域の関係機関の皆様からもお叱りを受けることもありますが）、心強く思っています。

再来年の２０２５年には団塊の世代の方々が後期高齢者となり、そして２０４０年には団塊ジュニアの方々が６５歳以上となります。１０数年後の社会がどのようになっているのか想像がつきませんが、ソーシャルワーカーそれぞれの“経験”を皆で共有することが専門性の担保につながり、結果的に、将来も必要とされる職種として地域の皆さんのお役に立てるのではないかと思っています。ソーシャルワーカーの専門性の担保と、将来も必要とされる職種として地域の皆さんのお役に立つことができるためにも、地域の皆様からのご意見・ご要望がありましたらお知らせ下さい。よろしくお願いします。（地域医療連携室 室長 南出　弦）